



# 浜家連 ニュース 8月号

第216号

平成30(2018)年8月1日発行

発行人 特定非営利活動法人 横浜市精神障害者家族連合会  
事務局 〒222-0035 横浜市港北区鳥山町 1752 番地  
障害者スポーツ文化センター 横浜ラポール3階  
電話 045(548)4816・FAX 045(548)4836  
URL <http://hamakaren.jp/>

## お母さんの作ったご飯が食べたい！ 副理事長 大羽 更明

### 「お母さんの作ったご飯が食べたい」

入院中の息子 A さんが電話で B さんに訴えてきました。

A さんはもともと自分の気持ちを言葉で表現するのが苦手で、調子を崩すと不安や緊張から衝動的な暴力が出てしまいます。このところそのような行動が頻発して A さんの家の居間の壁は穴だらけになり、エスカレートして刃物を B さんに向けるときもありました。そのような行動がおさまると A さんはいつも「またやってしまった。ごめん」と言って謝りますが、気持ちが昂ってくる時は怒りの行動を抑えられないようです。できれば家族でなんとかとしたいと思ってきた B さんですが、このま

### B さんは考えています。

A さんの繰り返される衝動的な暴発は、発達障害のある人にみられがちな行動障害で、主治医は生活環境に問題があると指摘しています。思い通りにならない本人の気持ちや嫌だと感じていることを、身近にいる家族が受け止めることができていません。A さんにとって家庭は安心して生活できる居場所になっていない、それが本人にとって大きなストレスとなり、不安や不満などが不合理な行動につながると云われています。

### 一つ、親が変われば子が変わる。

よく聞く話ですが、一朝一夕にできることではなさそうです。でも私が変われば家族が変わるのなら、私の身に染みついた諦めの態度の見直しから始めてみましょう。A さん本人ができること、A さん本人に必要なこと、A さん本人がやりたいこと、ワク

までは家族では手に負えない、家族も共倒れになってしまうと思って医療保護入院を選択したのです。入院したくないという本人の意志があるので、迷い迷いした上での決断をしたのですが、この電話を聞くとやはり、切ない、やり切れない気持ちです。

せめてもの救いは、主治医から今回は最長 3 ヶ月、できれば 2 ヶ月でも退院という目標で薬の調整をしてみると云われたことです。入院直後は身体拘束なし、施設なしでの保護室で、1 週間後には閉鎖病棟でも外出が許可され、ケータイの使用も許されました。



一時的に環境を変えて休息する必要はあったと思いたいところです。でも、問題は A さんの退院後の生活の見通しです。

家庭環境に問題があるので、同じ家に帰ればまた同じことが繰り返されることが予想できます。かといって、一人暮らしができる力はありません。施設やグループホームも受け容れてはくれません。悪循環を繰り返さないために今できること、目指すことは二つです。

ワクする好きなこと、将来に向かって取り組んでみたいこと、などを一緒に探っていきましょう。A さんとは話ができると信じるところからやり直します。

## 二つ、外の風を入れる。

これまでにお世話になった支援機関、支援者にあらためてもう一度相談してみましょ。まずは何が何でも計画相談を利用できる事業所を見つけること、そうすれば A さんに合った継続的で計画的な個別の支援計画と福祉サービスの利用ができるでしょう。これまで以上に支援者を信頼していかなければなりません。

そして、精神科訪問看護などを利用して社会生活

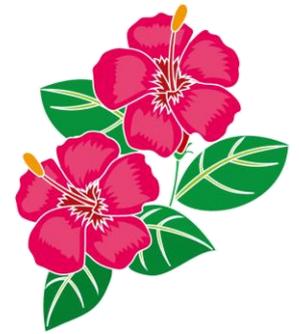
を送るための訪問サポートを受けること、家族だけではできないきめ細かなメンタルケアをお願いできるはず。家族と A さんの関係の持ち方についてのアドバイスも期待できるでしょう。

とにかく、マイナスからの再出発の正念場です。A さんと共に上を向いてリカバリーを目指して歩いてゆくと決意しています。

## 浜家連の動き

### ☆政党へ要望書の提出及び懇談会が終了しました☆

党名	日	時	参加者数
自民党	6月7日(木)	16:20~17:00	15名
公明党	6月12日(火)	15:00~15:45	11名
共産党	6月18日(月)	10:00~11:00	11名
民権フォーラム	6月21日(木)	14:30~15:00	11名



\*\*\*懇談会の模様について報告が届いています\*\*\*

### 共産党横浜市議員団との懇談会に出席して

平成30年6月18日(月)10:00~11:00 市庁舎共産党会議室に於いて、共産党議員9人、浜家連11人出席のもと、平成31年度の予算編成に対する要望書についての懇談会が行なわれました。

自己紹介の後、大羽副理事長が「24時間支援付きのグループホームの整備を」「危機にある精神障害者への訪問介入と緊急短期入所受け入れを」「リカバリーを目標とした医療から福祉、地域での社会生活、就労までの切れ目のない個別相談支援を」という最重点要望事項について説明をしました。続いて、精神科医療の隔離・拘束、

### さかえ会 井汲悦子

医療費を含めた経済的困難、差額ベッド代、診断書の無料化、家族教室による家族支援、交通運賃割引の適用、福祉人材の確保等浜家連の参加者が一人ずつ個々の現状における問題点を訴えました。

あらかし由美子団長を初め議員のみなさんは熱心に聞いて下さいました。「医療の実態等を浜家連でも調べまとめて知らせてほしい。それをもとに取り組んでいきたい。」という力強い応援をいただきました。また、差額ベッド代についての資料も調べて下さいました。

### 民権フォーラム横浜市議員団との懇談会に出席して いずみ会 川原 みき子

6月21日(木)、民権フォーラム横浜市議員団へ平成31年度精神保健福祉施策要望書を提出しました。浜家連から11名の参加でした。議員団は21名全員の出席でした。私は初めて参加しました。思いの外限られた時間の中で穏便に懇談会は進みました。

議員団の先生方は家族会員の要望を熱心に聞いて下さいました。参加者全員が自分の要望を話す事ができました。このような機会は滅多にないと思いますので参加して良かったです。

政党や健康福祉局へ要望書の提出、懇談会が

行われるのには、役員の方々が先の諸先輩役員の思いを受け継いで頑張っておられるからとの思いで感謝でした。

浜家連の息の長い活動を継続することで要望が1つでも早く実現出来ますよう願っています。

## みんなのパレードが開催されました

6月28日炎天下の中「療費助成の拡充を！みんなのパレード」が開催されました。各団体からのリレートーク、みんなのパレードを行い最後に神奈川県へ医療費助成の要請と懇談を行いました。

参加者 みんなのパレード 66名（浜家連 14名）

神奈川県への要請と懇談 約20名（浜家連 4名）

### 「みんなのパレード」に参加して

みどり会 阿部 正義

「みんなのパレード」に参加すべく“闘い”の準備をリュックに詰めて集合時間の40分前に、開港記念会館に到着した。

交流集会での大羽副理事長の挨拶後、ようやく“闘い”「パレード」が始まった。5、6人のお巡りさんに囲まれ、息子と時折“闘い”を繰り広げる私も一番大きな浜家連旗を持ち歩き出した時は緊張した。

シュプレヒコールの『医療費無料にしてください！』（72歳の私と比べ、37歳の息子には約2.4倍もの医療費を支払っているのので、『ゼロ円』は本当に助かる）をだんだんと大声で叫ぶようになり、緊張感が取れてきたころに“闘い”が終わった。

初めて参加した“闘い”「パレード」がこんなに楽しいとは・・・。

また参加したい。

「ぜひ、医療費『ゼロ円』を実現させ、17年間行っていない旅行に行きたいな～」と思いながら帰路についた。



## 家族による家族学習会担当者研修会 in 横浜が開催されました

家族学習会実行委員会委員長 稲垣 宇一郎

7月2日(月)午前10時30分から午後3時30分の間、横浜ラポール2階大会議室において「平成30年度 家族による家族学習会担当者研修会 in 横浜」が開催されました。

受講者は浜家連関係では、本年度に家族学習会の実施を計画している4単会で担当者として受入れを担われる方々、及び来年度以降に家族学習会を実施したいと考える単会の方々です。

更に浜家連会員以外の団体では、従来から家族学習会を熱心に取り組んでおられる平塚市の湘南あゆみ会の皆様、及び昨年からご参加の子どもの立場の会のこどもぴあの皆様です。

合計30名の方々が研修生として参加されま

した。

またこの運動を支援頂いている横浜市健康福祉局からも見学者の立場でご参加頂きました。

当日のプログラムは、午前中、家族学習会実行委員を講師とする、家族学習会の進め方、おもてなしの心構え、対応の仕方の基本となる「ゆで卵理論」等を学習。

午後からは、3班に分かれて実際にリーダー。コリーダー役を体験して頂く模擬家族学習会を行いました。

参加者の皆様からの頂いたアンケートから、座学では理解できたが、模擬とは言え実際に近い模擬学習会でリーダー、コリーダーを体験し

てみて、「難しさが判った。」「共感を言葉にするのが難しかった。」とのご感想を伺いました。

それでも皆様は共感・傾聴・おもてなしの気持ちを心がけたいと会場を後にされました。

本年度も鶴見区のぞみ・旭区あけぼの会・青葉区あおば会・金沢区あおぞら会の4単会での家

族による家族学習会が始まります。

参加者の皆様の熱心な取り組みから、本年度の家族による家族学習会も「話せる場に巡りあえて良かった。」とあっていただき、お迎えする担当者の皆様も「私たちも元気を頂いた。」と言える学習会が実現できることを確信致しました。

## 平成 30 年度第 1 回 浜家連研修会報告

### 「精神病院での身体拘束について」

あじさいの会 音田 園恵

日 時 6月15日(金) 13:00~16:00

場 所 横浜ラポール2階 大会議室

講 師 長谷川 利夫 氏 (杏林大学 保健学部教授)

参加者数 71名

長谷川先生は 法学部を卒業され 銀行員として 12 年間勤めた後 医療の道に進まれた異色の経歴の方で、時には語気を強めて精神科病院の不条理を話してくださいました。急性期の当事者を抱えた家族はすぐる思いで病院に繋がりますが、時として当事者を苦しみの中に陥れて

しまっているとしたらこんな悲しく辛いことはありません。ニュージーランドの青年が日本の精神科病院で身体拘束後に亡くなったニュースは、世間に衝撃を与えました。



**ここ10年で 精神科病院の身体拘束は 約2倍に急増しています。なぜ?要因としては、**

- 急性期の病棟が増えた。病院職員の判断で急性期と判断されてしまう。
- 身体拘束は、拘束具があればできる。隔離室はいらない。
- 診療報酬がついた。開放病棟をつぶして精神科救急病棟をつくるどころも出てきた。などが挙げられます。

### 厚生大臣が定める 身体拘束の「対象となる患者」

- ア. 自殺企図または自傷行為が著しく切迫している場合
- イ. 多動または不穏が顕著である場合
- ウ. アまたはイのほか精神障害のために、そのまま放置すれば患者の生命にまで危険が及びおそれがある場合

**今も1万人を超える方が拘束されている。**

- ・身体拘束が、薬の「処方」と同じようになっている。・外部からのチェックが全く働かない。
- ・身体拘束されると面会謝絶になる。・隠すことが可能になる。・密室でありセクハラ的なことがあっても看護師は妄想で言っているという弁護が可能。・可視化が必要。・カルテ開示請求するが、なかなか対応してくれない。(カルテは自分のことが書いてあるので、自分のものだ)

こんな目にあつたなど連絡してください。一緒に考えていければと思うとのことで、連絡先を最後に記載しています。

**家族会は、医療基本法とか患者の権利法をつくる活動をしたらいい。**

また 身体拘束と合わせて 消えた社会的入院「重度かつ慢性」問題から国家の意思を考える。というテーマで、どうしても言っておかなければならないし、ぜひ知っておいてほしい「重度かつ慢性」問題について

日本の精神科病院は32万床あって1年以上入院している人は19万人。2004年「これからの精神保健医療福祉の改革ビジョン」で退院条件が整えば退院可能な人は7万人。つまり国は初めて 受け入れ条件が整えば病気で入院しているわけではない人が7万人いると認めただけです。いつのまにか「社会的入院」と誰も言わなくなり患者さんは「重度かつ慢性」となり、19万人のうち6~7割の11万~13万人が「重度かつ慢性」で入院医療の必要な人とされた。どうやって治すか？電気ショックとクロザピンで治すと障害福祉計画に組み込まれている。これは深刻な問題。

さらに病院を審査する人が、日本精神科病院

長谷川先生への様々な情報・相談は

Tel : 090-4616-5521 • E-mail : hasegawat@ks.kyorin-u.ac.jp

協会の副会長である。これは病院に有利な方向に持って行ける。おかしいと声を挙げていかなければならない。

日本精神科病院協会の山崎学会長のオピニオンとして「精神科医にも拳銃を持たせてくれ」という言葉がホームページを通じて社会に発信された。これは全国の精神科病院の団体の機関紙の巻頭言であり、その発信者（鶴田医師）はその会長の病院の「行動制限最小化委員長」であるという。

このような言葉を生んでしまう社会のありようも含めて多くの方々と話し合う場を持ちたいと長谷川先生は活動されています。

## 神奈川ピアまつり参加報告

第2回「神奈川ピアまつり！」に参加しました。

副理事長 倉澤 政江

日時：2018年6月8日（金）18：30～20：45

場所：横浜市開港記念会館講堂



今回私は「家族のピア活動」というテーマでリレートークに参加しました。開会1時間前に事前打ち合わせがあり、堀合（弟）さんより「1組持続時間2分です！過ぎるとチン！と鳴らします。時間は守ってください！」テキパキとした説明にちょっと緊張。

オープニングは法被姿のピアまつり青年隊が「ワッショイ・ワッショイ」と威勢の良いかけ声で会場を盛り上げます。

「リレートーク パートⅠ」は当事者枠です。

横浜、川崎、相模原、鎌倉、平塚、茅ヶ崎、海老名、そして東京。それぞれの地でピアスタッフ、ピアサポーターとして活躍している人達が、一人又はグループで会場の皆さんに熱くアピール、1組1組の放つエネルギーに圧倒されました。薬物依存の当事者も壇上から思いを訴えました。

「リレートーク パートⅡ」は家族、学生、支援職、医師、メディア、有識者19組。

倉澤は次の様にアピールしました。

浜家連のピア活動は、啓発活動、電話相談等ありますが、今力を入れているのは「家族による家族学習会」です。テキストによる学びと自分の体験を話す場です。特に語り合いに重きをおきます。病気本人の物語を語るのではなく、家族自身の物語を自分のコトバで話します。私の物語が他人に受けとめられ認めてもらうことにより安心が生まれ、勇気が出てきます。

ある家族学習会で『いまだトンネルの中にいる様な気持だ』と言っていた80歳のおかあさんが5回の学習会の終わりには『子どもは子どもなりに一生懸命生きていたと思えた。これでいいのよね。子どもは子ども、私は私』と明るく

話したとき、人は何歳になっても気付きそして変われるのだと感激し、その言葉に他の家族も励まされました。

家族会が高齢化していると言われますが、リカバリーするのに年齢は関係ありません。元気になりたい。ちがう自分に出会いたいと思ったら家族会に来て下さい。お待ちしております。

トップバッターでしたので、その後はホッとしてあまり記憶が定かではありませんが、市健康福祉局の江原さん、市精連の大友さんのお顔もありました。その他NHKのディレクター、精

神科医、学者等がマイクの前に立ち総勢30組のリレートークは終わりました。その後、福祉新聞の福田さんがコーディネートするシンポジウムもあり、盛沢山のプログラムでした。

住友さん（YPS横浜ピアスタッフ協会 会長）の言葉を借りれば「人と人が集まる中で、その場では分からなくても、徐々に自分の中で変化するものが生まれてくる。人と人とのつながりが化学反応を起こす」「ピアまつり」はそのような場でした。

### ◆イベントのお知らせ◆

#### §平成30年度 第3回 浜家連研修会§

「家族の関りかたについて」

日 時 平成30年9月21日（金）午後1時半～午後4時（開場午後1時）

場 所 横浜ラポール 2階 大会議室

講 師 鈴木 高男 氏（摂食障害家族の会 ポコ・ア・ポコ 代表）

#### §Bブロックフォーラム§

「みんなちがって 皆一緒

みんなの学校 みんなの居場所」

日 時 平成30年9月29日（土）13:00～16:00

場 所 保土ヶ谷公会堂

内 容 音や 和太鼓演奏

映画「みんなの学校」上映



#### §Cブロックフォーラム§

##### 4. Cブロックフォーラム

「精神障害者のSOSってなに？」

日 時 平成30年10月6日（土）13:00～16:00（開場12:30）

場 所 磯子公会堂（磯子区総合庁舎1階）

1部 講演「精神障害者と家族のSOS」

蔭山 正子先生（大阪大学大学院医学系研究科准教授）

2部～3部 リレートーク「障害者のSOSとリカバリー」

YPS横浜ピアスタッフの皆さん

4部 「全体総括トーク&メッセージ」

蔭山先生+YPS 横浜ピアスタッフ協会の皆さん

【編集後記】7月のなかばで連日の猛暑日。「熱中症で病院に搬送」とのニュースが連日流れています。小学1年の児童が、校外学習中に熱中症で亡くなるとの痛ましい事故もありました。

想像を超える暑さ、冷房器具を工夫して使いながら体調を整え、今年の夏を乗り切ることができればと思います。

（事務局 中居）